

V-7

## 自閉症・情緒障がい教育

### (1) 自閉症・情緒障がい特別支援学級

自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難な児童生徒や、主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難な児童生徒が対象です。

各教科等の他に、自他の気持ちを理解したり共有を図ったりする指導や自分の気持ちを落ち着かせる指導、状況を理解したり場に応じた行動の仕方を身に付けたりする指導を行います。

### (2) 指導に当たっての考え方

自閉症の児童生徒は、「適切な対人関係形成の困難さ」、「言語発達の遅れや一般的に用いられるときとは異なる意味での言葉の理解」、「手順や方法に関する独特のこだわり」等が見られることから、視覚的な情報の活用や動作等を利用して意味を理解したり、繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚えたりするなど、学習内容の習得の困難さを補完するための配慮が必要です。

情緒障がいの児童生徒は、心理面での不安定さから学習の積み上げが難しかったり、治療等により学習の空白期間が生じたりする場合もあることから、理解の状況を考慮した基礎的・基本的な内容の確実な習得するための配慮が必要です。

### (3) 教育課程の編成に当たって

児童生徒一人一人の障がいの状態等に応じて、学習や社会生活への適応の状態の改善を目指し、自立活動を取り入れます。また、各教科に示されている目標及び内容については、①当該学年の目標及び内容が適しているか、②当該学年より前の各学年の目標及び内容が適しているか、①②の学習が困難または不可能な場合、知的障がい者である児童生徒を教育する特別支援学校の目標及び内容について取り扱うことが適しているかを検討することが大切です。

#### 指導のポイント

- 特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に意識を切り替えていくよう指導することが大切です。
- 視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚などの様々な感覚の過敏性や鈍感性から、パニックや突然情緒が不安定な状態になることが見られることから、子供一人一人の状態を観察し、実態把握することが必要です。
- 不登校については、生活リズムの安定や自我、自主性の発達を促しつつ、家族間の人間関係の調整を図りながら、登校することのみにこだわるのではなく、本人のペースで学校と関わりがもてるように学校側が柔軟な支援体制をとることが重要です。

# 事例

## 視覚的な情報を活用しながら、コミュニケーションの力を高めるための取組

### 生徒の実態

- ・注意が散漫になったり、ストレスをためてイライラしてしまうことも見られるが、授業中は私語を慎み、集中して取り組もうとしたり、積極的に発言したりする様子が見られる。
- ・「その服似合っていないね」と言って、相手を泣かせることがあり、その場では謝るが、相手を傷つけるような自身の言動を振り返ることが難しく「本当のことを言っただけ」と日記に書く様子が見られる。

### 「社会科」学習指導案

|       |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 題材名   | 大化の改新   |   |   |
| 日時    | 令和3年(2021年)10月22日(金)4校時目 11:35~12:25  |   |   |
| 対象    | 中学校第1学年生徒4名   |   |   |
| 時間    | 学習内容  | 手立て   |   |
| 11:35 | <b>1 はじめのあいさつ</b><br>・日直があいさつをする。<br>・本時の学習内容を知る。                           | ・ <u>学習の流れを視覚的に示す。</u><br>・ <u>質問シートで、困ったときの質問の仕方を確認する。</u>   | ・質問シート  |
| 11:50 | <b>3 大化の改新</b><br>・画像や映像を視聴する。<br>・ワークシートの穴埋めをする。                           | ・漫画やNHK for Schoolを用いて視覚的に理解しやすい教材を用意する。<br>・同じワークシートの画面を大型TVに映しながら説明する。<br>※質問できない様子があれば促す。                              | 「分かっているはず」と片付けずに、丁寧に説明する場面を設けます。  |
| 12:15 |   |   |  【GoogleClassroom】 |
| 12:20 | <b>4 定着問題</b><br>・Googleフォームを開き、小テストに取り組む。<br><b>5 振り返り</b><br>・本時の振り返りをする。 | ・Google Chromeを準備させ、生徒自身に教材にアクセスするよう促す。<br>・ <u>本時で分かったことや分からなかったこと、説明したり質問したりしたときに困ったことなどについてワークシートに記入させたり、聞き取ったりする。</u> | 聞き取る際に、シンボルや簡単な絵などによって視覚化しながら聞き取ります。  |

### 【取組のポイント】

- 授業中の出来事をシンボルや簡単な絵などで視覚化しながら聞き取り、気持ちや状況を整理しながら言語化するよう工夫する。
- 授業の終末で、振り返りの時間を設定することにより、説明したり質問したりする等人と関わるために必要なコミュニケーションの仕方を指導する。

### 【成果と課題】

- 視覚的な情報を活用した一斉指示及び説明等の教材を活用することにより、生徒が主体性を発揮し、課題に取り組む意欲を喚起することができた。
- ▲ 授業の振り返りで言語化した内容について、自立活動の時間で取り扱い、気持ちや状況を整理しながら適切な言葉で伝えるなどの指導内容を設定する必要がある。